

2月までの米景気は概ね堅調

ポイント① 企業や家計の景況感は強い

3月初めまでに発表された米国の主要経済指標は、少なくとも2月までは米国の景気が概ね堅調に推移していたことを示唆するものでした。

米ISM（サプライマネジメント協会）景況感指数は、製造業が1月より若干下がったものの、拡大/縮小の分岐点である50を2ヵ月連続で超えました。一方、非製造業指数は昨年2月以来の水準に上昇しました。2月の消費者信頼感指数も堅調でした。

ポイント② 雇用者数は高い伸びが続く

3月6日発表の2月の米雇用統計によれば、非農業部門雇用者数は前月比+27.3万人と1月の改定値と同じ伸びとなり、事前の市場予想を上回りました。

一方、失業率は3.5%と1月の3.6%から若干低下し、歴史的な低水準が続いています。

ポイント③ 追加利下げは市場動向次第

米国での新型コロナウイルスの感染拡大はごく最近から始まり、2月までの景気指標にはほとんど影響していないようです。ただ、今後の影響拡大への懸念から2月下旬には株価が急落し、3月3日には臨時のFOMC（米連邦公開市場委員会）で0.5%の緊急利下げが行なわれました。

3月17、18日には通常のFOMCが開催され、市場では追加利下げ予想が強まっています。ただ、まだ景気指標に鈍化の兆しが少ない中で、米国や世界の感染拡大の程度などを見ながら金融政策の判断をすることは、政策当局にとって容易なことではありません。市場でもFOMCに対する見方が揺れ動き、株式・債券価格や為替レートなどの変動が高まる可能性があります。

図1：ISM景況感指数と消費者信頼感指数

期間：2005年1月～2020年2月、月次

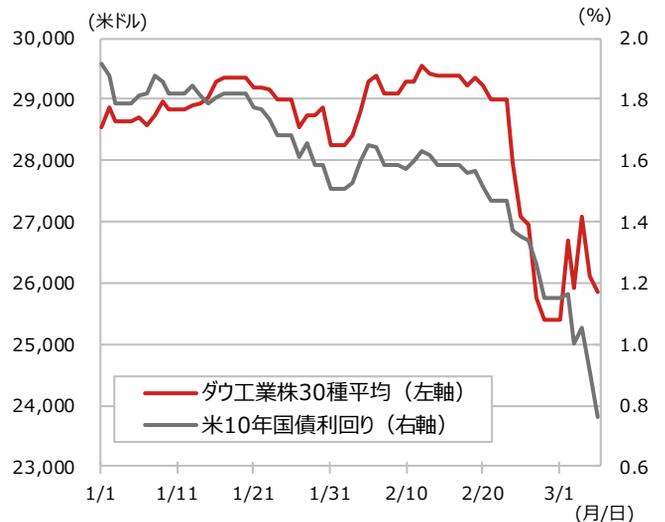


網掛けは景気後退期

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

図2：ダウ工業株30種平均と米国債券利回り

期間：2020年1月1日～3月6日、日次



(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

3月12日 ECB(欧州中央銀行)理事会
3月17、18日 FOMC

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。